

---

6月6日

わるる

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

6月6日

### 【Nコード】

N8619A

### 【作者名】

わるる

### 【あらすじ】

主人公の彼氏が死んでから六年。彼女は、命日に彼の墓参りをする。

## （前書き）

注意！この小説は、非常に多くの6、または6を含みますので、六恐怖症の方は、十分に注意してお読みください。

ああ、今年も6月6日がやってきた。

彼の誕生日で……命日。

私たちは、六年前の今日、結婚するはずだった。

しかし、彼はその日の朝六時に、何者かに殺された。

ナイフで六ヶ所を刺され、二目と見られない状態になっていた。

犯人はいまだに捕まっていない。

私は六日六晩泣き続けた。

あれから六年経ったのか。

最近になって、ようやく心の整理がついてきた。

そして今、彼の墓場の前に立っている。

雨が降っている。

彼が死んでから、この日にならず雨が降るようになった。

まるで、空が彼の死を悲しんでいるみたいだった。

6月6日の六時に六ヶ所を刺されて死んだ、可哀想な彼に、6本の

朝顔を供えた。

彼の好きだった花だ。

「朝顔って、毎日早起きして、すごいよな。尊敬するよ」

彼はそう言っていた。彼は、朝寝坊ばかりしていたから……

いつのまにか、私の周りには、五人の黒い服を着た者達が居た。

彼の……父、母、兄、妹、そして、親友。

腕時計を見ると、朝の六時になろうとしていた。

彼の死んだ時間。

彼の父は、事故で片目を失っていた。

彼の母は、ハンカチで右目を押さえている。

彼の兄は、眠そうに左眼をこすっていた。

彼の妹は、私が苦手らしく、いつも母親の後ろに隠れていた。今は、左側だけ見える。

彼の親友は、「痛い痛い」と言いながら、左目をこすっていた。目にゴミが入ったみたいだ。

そして、今は、右目が少し前に腫れたので、眼帯をしている。

ゴトリと、彼の墓から音がした。

同時に、六人が音のしたほうを見つめる。

六人が一人一つずつ、合計六個の瞳が、墓を見つめた。

すると、備えてあった饅頭が落ち、コロコロと転がった。

それは、彼の妹の前で止まった。

その時、私は全てを理解した。

彼を殺したのは、彼女だ。私は、彼女が彼を殺した理由が何となく分かった。

彼女が彼を見る目は、妹のそれとは違った。

彼は気付いていないようだったが。

もしかしたら、私が女だったから、分かったのかもしれない。

そう、彼女は自分の兄に恋をしていた。

そして、彼を私に取られるのが悔しかった。

だから、まさに私に奪われる当日、殺した。

そんなところだろう。

全てを理解したが、不思議と私は何も感じなかった。

もし六年前の私だったら、間違いなく、的確に、素早く彼女を殺していただろう。

でも、今は全くそうは思わない。

多分、心の中で完全に彼の存在が風化しているからだろう。

なぜなら今、私は彼の顔を思い出せないからだ。

（後書き）

多分、こんなに薄情な人は、そう多くはいないと思います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8619a/>

---

6月6日

2011年1月25日02時11分発行